

6) 甲府城に関連する文化財

甲府城や甲府城に関わった人物にまつわる文化財は、現在も県内各地に残されている。

まず建造物として、甲府市指定文化財である華光院毘沙門堂は、元は柳沢吉保が甲府城本丸に設置したもので、その後、柳沢吉里の大和郡山移封に伴い華光院へ移したと伝えられる。甲府城内に所在した建造物は多くが幕末に取り壊されているため、現在のところ現存する数少ない建造物の一つである。また、同じく甲府市指定の大泉寺総門は、柳沢吉保が創建した菩提寺である永慶寺の総門を移築したものと伝えられる。永慶寺は柳沢吉保によって甲府市岩窪町に建てられたが、吉里とともに大和郡山へ移ったため、現在は所在しない寺院である。一方、慶長院（甲府市朝日三丁目）にある冠木門は詳細不詳であるが、城内建築との伝承を有している。木戸門の形式を示し、見附施設の撤去に際し移築されたと推定されている。

絵画は、柳沢吉保像が県指定文化財として一蓮寺（甲府市）と常光寺（韮崎市）にそれぞれ保存されている。いずれも狩野常信の筆によるもので、自身が賛を加えている。また指定文化財ではないが、柳沢吉里が描いた「絹本着色信玄像図」が恵林寺（甲州市）に所蔵されている。

彫刻は、浅野長政により善光寺（甲府市）へ移された、元千塚村（甲府市）光増寺所蔵の木造阿弥陀如来及両脇侍像と元宮地村（韮崎市）大仏堂所蔵の木造阿弥陀如来及両脇侍像が、重要文化財として指定されている。また、「木造柳沢吉保座像附寿蔵安置納状一通」と工芸品「短刀備州長船倫光応安二年八月日」及び「太刀銘来国長附糸巻太刀拵」は柳沢吉安が菩提寺である恵林寺（甲州市）へ自ら納めたものである。前者は甲州市指定文化財に、後者の工芸品2点は国重要文化財にそれぞれ指定されている。

書跡は、甲府城及び甲府城下町に係る記録、甲府城の築城に関わった加藤光泰、浅野長政等人物に関連する文書等関連記録類が県指定文化財を中心に指定される。

歴史資料は、右左口の商人が特権の根拠として保存していた徳川家康御朱印や羽柴秀勝御朱印、及びそれらを保管していた石櫃等一括資料である「右左口区有文書及関連資料一括」、柳沢吉保と正室定子夫妻が永慶寺へ寄進し、永慶寺が大和郡山移封後に恵林寺（甲州市）へ寄進した道具や経典類一式「柳沢吉保・定子関係資料一括」等が県指定文化財となっている。

考古資料は平成2年度から16年度（1990～2004）まで行われた「舞鶴城公園整備事業」に伴う発掘調査で出土した金箔鯨瓦や飾瓦、遺物が県指定文化財となっている。金箔鯨瓦は、甲府城築城期のものと比定される金箔付の鯨瓦120点であり、その多くが本丸周辺を中心に出土している。飾瓦は、表面に金箔や朱が施された甲府城築城期の風神を模した鬼瓦や、豊臣家の桐紋や浅野家の違い鷹の羽紋、江戸時代中期の柳沢家の花四菱等の家紋付き瓦など151点がある。遺物は、寛文年間に稲荷櫓台に地鎮具として埋納された輪宝や、江戸時代中期柳沢期に比定される花四菱の家紋を用いた銅製の釘隠、狭間の部材である木製品等の甲府城建築物の造営等に関わる資料32点である。

史跡は善光寺（甲府市）に所在する加藤光泰の墓が甲府市指定史跡に、恵林寺（甲州市）に所在する柳沢吉保夫妻の墓が甲州市指定文化財になっている。また国史跡武田氏館跡は甲府城築造までは甲斐国の拠点であった。

その他、文化財指定はないが、宝永7年（1710）在銘の伝甲府城追手橋擬宝珠（山梨県立

甲府第一高等学校・山梨県立考古博物館蔵)、伝塩硝蔵壺(考古博物館蔵)、伝甲府城内道具入箱(山梨県立博物館蔵)、清水御米蔵米盆・米板(山梨中銀金融資料館)などが各機関に伝わっている。一方、県指定文化財である山梨県庁舎別館(旧本館)および県議会議事堂は、楽屋曲輪跡地に昭和5年(1930)に山梨県庁舎として建築された。内装も当時の姿を良好に留めている庁舎建築の好例である。

以上で述べた以外にも、山梨県内には多くの甲府城や甲府城主に関連する文化財が存在しており、甲府城や山梨県の歴史を理解するために重要な役割を果たしている。



華光院毘沙門堂(甲府市指定文化財)

画像提供: 甲府市教育委員会



慶長院冠木門



伝甲府城大手橋擬宝珠

(前1点: 山梨県立考古博物館蔵
後2点: 甲府第一高等学校蔵)



擬宝珠に刻まれた銘



伝煙硝蔵壺

(山梨県立考古博物館蔵)

大手橋擬宝珠・伝煙硝蔵壺の画像提供: 山梨県立博物館



金箔鯨瓦



飾瓦



飾瓦



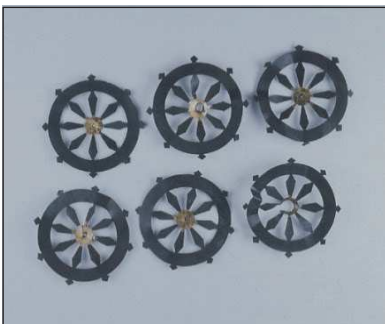
飾瓦



飾瓦



飾瓦



輪宝



狭間



釘隠

甲府城跡出土の指定文化財
(いずれも山梨県指定文化財 山梨県立考古博物館蔵)

甲府城および甲府城主に関わる県内所在の指定文化財一覧表

種別	名称	員数	所在地	所有者・管理者	概要	指定	指定年月日
建造物	山梨県庁舎別館（旧本館）及び県議会議事堂	2棟	甲府市丸の内1丁目6-1	山梨県	甲府城内に昭和初期に建築された山梨県庁舎。公共建築物として数少ない好例。	県	平成21年12月24日
	大泉寺総門	1棟	甲府市古府中町5015	大泉寺	柳沢吉保が菩提寺として創建した永慶寺の門を移築したと伝える。	市	平成5年9月1日
	華光院毘沙門堂	1棟	甲府市元紺屋町33	華光院	柳沢吉保が本丸に設置。柳沢吉里の太和郡山移封に伴い華光院に移築したと伝えられる。	市	平成27年3月31日
	華光院宮殿	1棟	甲府市元紺屋町33	華光院	享保8年、柳沢吉里が作成させた厨子。	市	平成27年3月31日
絵画	絹本着色柳沢吉保像（自賛） 狩野常信筆	1幅	甲府市太田町5-16	一蓮寺	柳沢吉保が狩野常信に描かせた自らの画像3幅対の一つで自ら賛を加えている。	県	平成9年12月15日
	絹本着色柳沢吉保像（自賛） 狩野常信筆・紙本墨摺 勤修作福念仏図説 附奉納目録・香奠目録并包紙	2幅 3紙	韭崎市青哲町青木	常光寺	柳沢吉保が狩野常信に描かせた自らの画像3幅対の一つで自ら賛を加えている。	県	平成9年12月15日
彫刻	木造阿弥陀如来及両脇侍像	3躯	甲府市善光寺3丁目36	善光寺	光増寺旧蔵のものを浅野長政が善光寺に移したと伝えられる。	国	明治39年9月6日
	木造阿弥陀如来及両脇侍像	3躯	甲府市善光寺3丁目36	善光寺	元宮地村大仏堂旧蔵のものを浅野長政が善光寺に移したと伝えられる。	国	明治39年9月6日
	木造柳沢吉保坐像 附 寿像安置 納状一通	1躯	甲州市塩山小屋敷	恵林寺	柳沢吉保が恵林寺に奉納。	市	昭和58年9月5日
工芸品	短刀 備前長船輪光 応安二年八月日	1口	甲州市塩山小屋敷	恵林寺	柳沢吉保が恵林寺に奉納。	国	大正4年3月26日
	太刀 銘 来国長 附糸巻太刀拵	1口	甲州市塩山小屋敷	恵林寺	柳沢吉保が恵林寺に奉納。	国	大正4年3月26日
書跡	坂田家文書	258冊 10通	甲府市大和町7-1	個人	甲府城下町府中検断約町年寄役に関わる文書の他、徳川家の印書などがある。	県	昭和33年6月19日
	慈照寺文書	16通	甲斐市竜王	慈照寺	武田氏・織田氏・徳川氏に関する文書。	県	昭和44年11月20日
	大善寺文書	72通	甲州市勝沼町勝沼	大善寺	武田氏・織田氏・豊臣氏・徳川氏などからの寄進状などがある。	県	昭和44年11月20日
書跡	向嶽寺文書	53点	甲州市塩山上於曾	向嶽寺	加藤光泰によるが加えられた向嶽寺領絵図などがある。	県	昭和48年7月12日
	大泉寺文書	20点	甲府市古府中町	大泉寺	武田家・浅野家・豊臣家等からの判状などがある。	県	昭和55年9月18日
	広敵院文書	36点	笛吹市一宮町金沢	広敵院	加藤光泰の文書などがある。	県	昭和56年3月12日
	一蓮寺過去帳	3冊	太田町5-16	一蓮寺	一条小山に創建された一蓮寺に伝わる過去帳。甲府城下の都市住人の実態を伝えている。	県	昭和58年12月26日
	旧巨摩郡北山筋山中十二箇村共有文書・箱・袱紗	文書25点 箱5点 袱紗2点	甲斐市島上条	旧北山筋十二箇村古文書保存委員会（甲斐市教育委員会）	加藤光泰黒印状や浅野長政黒印状などがある。	県	平成12年3月2日
歴史資料	右左口区有文書及び関連資料一括	2526点	甲府市右左口町	宿区	徳川家康朱印状や羽柴秀勝朱印状等の文書がある。	県	平成14年7月4日
	柳澤吉保・定子関係資料一括	111点	甲州市塩山小屋敷	恵林寺	柳沢吉保と正室定子夫妻が永慶寺へ寄進した道具・経典類等。柳沢氏の太和郡山移封に伴い恵林寺に寄進。	県	平成19年4月26日
考古資料	甲府城跡出土金箔鱗瓦	120点	甲府市下曾根町923	山梨県	発掘調査により出土した金箔鱗瓦	県	平成21年5月21日
	甲府城跡出土飾瓦	151点	甲府市下曾根町923	山梨県	発掘調査により出土した金箔飾瓦	県	平成22年3月31日
	甲府城跡出土遺物	32点	甲府市下曾根町923	山梨県	発掘調査により出土した石製品・金属製品・木製品。	県	平成23年9月1日
史跡	武田氏館跡		古府中町・大手3丁目・及び屋形3丁目	甲府市	甲斐武田氏三代の居城である。甲府城築造まで徳川家康や加藤光泰により改修を受けつつ甲斐国の拠点城郭であった。	国	昭和13年5月30日
	甲府城跡		甲府市丸の内一丁目、中央三丁目、愛宕町字愛宕町	山梨県	内城および愛宕山石切場。	国	平成31年2月26日
	加藤光泰の墓		甲府市善光寺三丁目36-1	善光寺	加藤光泰の墓。	市	昭和62年3月31日
	柳沢吉保夫妻の墓		甲州市塩山小屋敷	恵林寺	柳沢吉保夫妻の墓。柳沢氏の太和郡山移封に伴い、菩提寺永慶寺より恵林寺に改葬。	市	昭和62年12月12日

※市町村指定文化財は代表的なもののみを記載

7) 文 献

甲府城に関する文献資料については、これまで『甲府市史』・『山梨県史』・『甲府城総合調査報告書』のほか、甲府城に関わる各種調査報告書などで研究の蓄積がある。このうち、一般的に購入または閲覧できる書籍に所収されているものを主として、甲府城の普請や作事、破損に関する内容が含まれる主な文献資料を以下の表に示す。

甲府城に関する主な文献資料一覧表

資料名	文献名	概要	所蔵	時期	年月日
徳川家康書状	森川勘一郎氏旧蔵書	徳川家康、平岩親吉に一条小山の普請を命じる。		築城期	天正十七年カ（一五八九）一月二十七日
徳川家奉公人連署状写	土屋家文書	徳川家康の奉行が八幡神社神主に府中御城普請の触れだしを命じる。	東大史料編纂所（影写本）	築城期	天正十七年カ（一五八九）四月二十五日
羽柴秀勝印判状写	桶屋町弥五右衛門旧蔵文書「甲斐国志卷之百一」『甲州文庫』	羽柴秀勝、築城従事の桶大工に対し伝馬役の免除	山梨県立博物館	築城期	天正十八年（一五九〇）八月三日
加藤光泰書状	大洲加藤文書	文禄の役出兵中の光泰より甲府城普請に関する指令	東大史料編纂所（影写本）	築城期	文禄二年（一五九三）一月カ
浅野長継判物写	市部村八幡神社文書『社記』卷之五	築城従事の柚人に対し年貢の一部免除	山梨県立図書館	築城期	文禄三年（一五九四）四月二十六日
浅野長吉証文写	西保北村持主惣百姓『甲州古文書』別五	浅野長政、鍛冶衆に年貢の一部免除か築城御用を申しつける。	国立公文書館内閣文庫	築城期	文禄三年（一五九四）十二月二十八日
浅野家印判状写	若尾資料「古文書雑集」六	浅野長政、築城従事の桶大工に対し伝馬役の免除	山梨県立博物館	築城期	文禄三年（一五九四）十二月二十八日
平岩親吉諸役免許状写	山梨県誌本「古文書」二	城普請に関連し、昼職人の諸役を免除		城番・城代期	慶長十一年（一六〇六）二月七日
宇津谷村石切人数書上帳	小林正博家文書	宇津谷村名主らより城普請に関連した村内石切職人の調書。	個人	綱重・綱豊期	寛文三年（一六六三）
甲府日記		寛文の大修理の記録等。	国立公文書館内閣文庫	綱重・綱豊期	寛文四年～十二年（一六六四～一六七二）
元禄三年三役人数名前書上ヶ帳	小林正博家文書	宇津谷村名主らより城普請に関連した村内石切職人の調書。	個人	綱重・綱豊期	元禄三年（一六九〇）
諸事書留		石垣修復のため幕府へ絵図を提出。	国立公文書館	綱重・綱豊期	元禄八年（一六九五）
楽只堂年録		宝永の大修理の記録等。	（公財）郡山城史跡・柳沢文庫保存会	柳沢期	宝永二～四年（一七〇五～七）
甲斐国府中城修復願書絵図		洪水被害をうけた城内の修復のために幕府に絵図を提出。	（公財）郡山城史跡・柳沢文庫保存会	柳沢期	正徳三年（一七一三）
甲府勤番日記	甲府勤番別所文書	城内建物の修繕・取り壊し等を記録した甲府勤番期の資料。	江戸東京博物館	甲府勤番期	享保九年～安永九年（一七二四～一七八〇）
城内稲荷社焼失につき窺	旧福昌院文書	甲府城内の稲荷社焼失に関する資料。		甲府勤番期	明和七年（一七七―）
宇津谷村百姓の灰石商売の儀御尋につき書上帳	小林正博家文書	城普請に関連した宇津谷村名主らからの石灰の商売に関する調書。	個人	甲府勤番期	安永八年（一七七九）六月
修復関連文書一		下山村からの城内修復に関する調書。	個人	甲府勤番期	安永八年（一七七九）九月
天明六年御用留	頼生文庫	城内の作事・普請等に関する資料。	山梨県立博物館	甲府勤番期	天明六年（一七八六）
天明七年御用留	頼生文庫	城内の普請・修復に関する資料。	山梨県立博物館	甲府勤番期	天明七年（一七八七）
文化四年御用日記	坂田家文書	太鼓櫓等の城内の修復に関する資料。	個人	甲府勤番期	文化四年（一八〇七）

資料名	文献名	概要	所蔵	時期	年月日
甲府城修復御用材山出し往来に付心得廻状	広瀬七良家文書	城内外修復のための用材に関する資料。		甲府勤番期	文政十二年（一八二九）
天保六年御用日記	坂田家文書	櫓・塀等の修復や石垣普請に関する記録。	個人	甲府勤番期	天保六年（一八三五）
天保七年御用日記	坂田家文書	湯村煙硝蔵の城内移築等に関する資料。	個人	甲府勤番期	天保七年（一八三六）
天保八年御用日記	坂田家文書	楽屋御殿の建具・張付のなどの入札・追手門番所の門交換等に関する資料。	個人	甲府勤番期	天保八年（一八三七）一月～六月
城内稲荷社大破に付願	旧福昌院文書	甲府城内の稲荷社破損に関する資料。		甲府勤番期	天保十三年（一八四二）
在家塚村瓦資料		城内修復に用いる瓦に関する資料。		甲府勤番期	年不詳
修復関連文書三		城内11箇所修復に関する入札資料。	個人	甲府勤番期	安政三年（一八五六）
御勝手帳	内閣文庫	城内修復に関する幕府勘定所における勝手方の資料。	国立公文書館	甲府勤番期	文久二年～慶応三年（一八六二～一八六七）
甲府城内太鼓櫓其外不用之建物并困塀之儀修繕につき伺		太鼓櫓その他不用建物の払い下げに関する資料。	山梨県立図書館	近代以降	明治七年（一八七四）五月十三日
甲府城内建物払下記	甲州文庫 甲093・4-289	本丸櫓等城内建物払い下げに関する資料。	山梨県立博物館	近代以降	年不詳
甲府城内外土塀一切入札払下		城内外の土塀払い下げに関する資料。	山梨県立図書館	近代以降	明治九年（一八七六）五月八日

8) 城絵図・城下絵図

甲府城を描いた絵図には、城郭の曲輪の位置や周囲の地形などを描いた城絵図と、城下町に重点を置いて描いた城下絵図があり、このほかに御殿図や鳥瞰図なども合わせると約 180 点が確認されている。

絵図の集成及び調査については、昭和 44 年（1969）に甲府城跡総合学術調査団により本格的に始められ、山梨県教育委員会が刊行した『甲府城総合調査報告書』には合計 7 点が集成されている。その後、平成 15 年（2003）に山梨県埋蔵文化財センターが刊行した『県指定史跡甲府城跡』では、75 点の絵図が掲載され、さらに報告書に掲載されなかったものを含めるとこの段階で 93 点が把握されている。また、平成 21 年（2009）刊行の『甲府城跡保存活用等調査検討委員会報告書』では、新たに発見された 6 点の絵図を掲載し、このうち京都大学大学院工学研究科建築学専攻が所蔵する『甲府（甲州）城並近辺之絵図』は、寛永 13 年（1636）から慶安 3 年（1650）頃に成立した甲府城絵図の中でも最古段階に位置づけられるものとされた。また、動線の描き方や精度の高さから「正保の城絵図」に近いものと推定された。さらに平成 25 年（2013）刊行の『県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業報告書』では、新たに 10 点の絵図を掲載し、このうち公益財団法人三井文庫が所蔵する『甲州府中町之図』は、『甲府（甲州）城並近辺之絵図』に類似するが、年代的にはこれを若干遡るものとされた。一方、平成 29 年（2017）刊行の『県指定史跡甲府城跡-甲府城跡総合調査検討委員会報告書』では、これまであまり調査の及んでいなかった軍・兵学系の絵図を含む 52 点が新たに確認された。

甲府城絵図については、城絵図が最も多く確認されている。絵図の描かれた年代が明確なものは少なく、ほとんどはおおよその年代観が与えられる。また、甲府城築城期にあたる天正 18 年（1590）から慶長 5 年（1600 年）に描かれた絵図は現在までに確認されておらず、築城者の浅野家にかかる絵図「幸長公甲州府中城図」（広島市立中央図書館浅野文庫）が城郭図としては築城期に近いものと考えられている。

以下に代表的な城絵図の特徴と年代について紹介する。

○『甲州府中之城図』弘前市立弘前図書館蔵

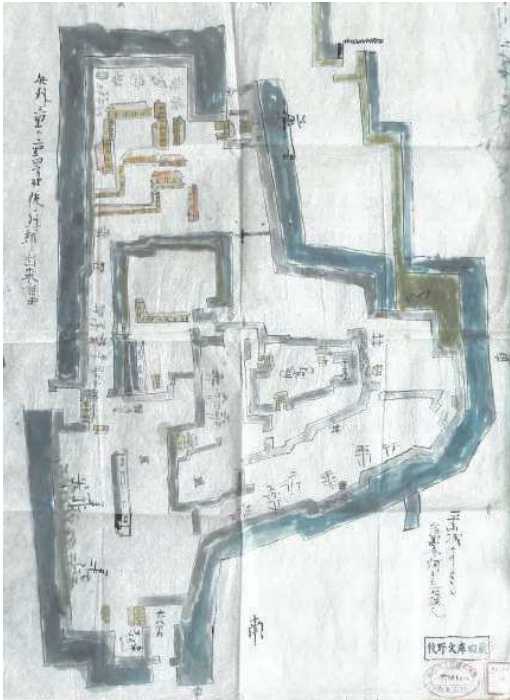
成立推定年代：慶長 5 年（1600）～寛文 4 年（1664）

牧野文庫に含まれたもの。築城後間もない甲府城を描いたと見られる絵図で、清水曲輪には建物群が描かれる。また楽屋曲輪の南西部分の堀の一部には石垣の表記は見られない。堀に沿って描かれた樹木表現や大手門前に「下馬」と書かれた高札が描かれている。また大手門付近には溜まり水が描かれている。

○『甲州府中町之図』公益財団法人三井文庫蔵

成立推定年代：元和 9 年（1627）～寛永 18 年（1641）

三井家連家である永坂町家四代三井高陰（宗養）のコレクション「藁陰舎（わらびさしのや）」文庫に含まれる。甲府城と城下町を詳細に描いており、城内だけでなく城下の建物も具体的に描いている。城内の建物は、建物概観と部分的にその間口や長さ、石垣の間数が記載される。城下については、十数名の人物名や屋敷内の建物配置が描かれる。また町名は詳細に描き込まれ、寺社名とともに墨書と朱書により柳沢時代などに変更された新旧の名称を記載している。



『甲州府中之城図』 弘前市立弘前図書館蔵



『甲州府中町之図』 公益財団法人三井文庫蔵

○『甲府城並近辺之絵図』 京都大学大学院工学研究科建築学専攻蔵

成立推定年代：寛永13年（1636）～慶安3年（1650）

甲府城と城下町及び主要街道を詳細に描いている。甲府城については城内の櫓、門、蔵などの建物を詳細に描き、建物、堀、石垣等の規模を具体的に詳細に記している。城下町については、主要街道とその他の道とを区別して描き、町名、地名、寺社名や特定の屋敷地についても区画を表記した上で名前を記載している。

○『楽只堂年録』 公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会蔵

成立年代：宝永2年（1705）

柳沢吉保の日記である『楽只堂年録』第173巻宝永二年九月二十六日部分に綴じ込まれている絵図。宝永年間の甲府城の様子が細部にわたって記されている。曲輪、門の名称が記され、御殿などの建物についても詳細を知ることができる。石垣の規模についても情報が多く、堀部分については水上からの高さも記されている。

○『甲府城絵図』 山梨県立博物館蔵

成立年代：元文4年（1739）

書き込みから元文4年3月に作成されたものとわかる。堀の規模や城内の面積、建物の規模、狭間の数など、この絵図からえら得る情報は非常に多い。元文4年には城内楽屋曲輪の殿舎の取り壊しが行われている。これと関連して作成された絵図の可能性も考えられる。

○「甲府城」『日本城郭史料集』 国立国会図書館蔵

成立年代：明治7年（1874）

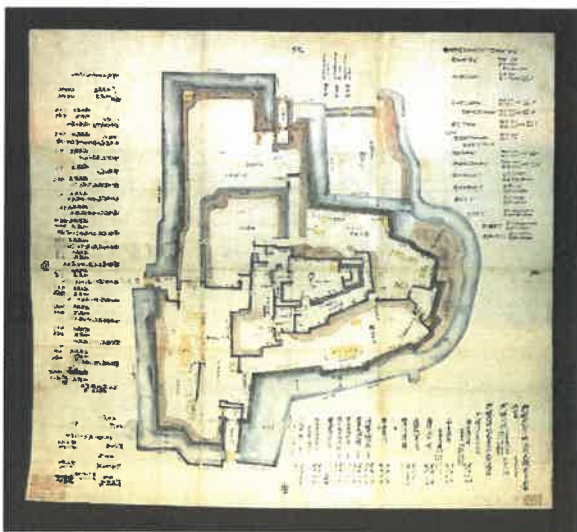
陸軍省により測量、作成されたものである。明治初年に甲府城内に残っている建物を確認することができる。また、城内4箇所について断面図が描かれているのが特徴である。

その絵図の正確さから、明治初年の甲府城の姿を知る上で重要である。



左) 『甲府城並近辺之絵図』 京都大学大学院工学研究科建築学専攻蔵

右) 『楽只堂年録』 公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会蔵



『甲府城絵図』 山梨県立博物館蔵



「甲府城」 『日本城郭史料集』 国立国会図書館蔵

9) 古写真

これまで確認した甲府城に関する古写真資料は、幕末から明治初期の資料は非常に少なく、建物に関する情報は極めて限られたものとなっている。また、明治10年代には勸業試験場として利用されている状況を撮影したものが数点みられるものの、資料は比較的少なく、所有者も限られている。明治30年代以降は、資料の数も増加し、特に明治39年(1906)以降は一府九県連合共進会や皇太子御巡幸等の各種催しの記念に撮影されたものがある。

これらのうち、主要を以下の表に示しているが、これ以外の資料も含め、撮影方向は、甲府城外南側からのもの、城内屋形曲輪から東側を撮影したものが多い。それ以外の方向から撮影した資料は比較的少なく、特に北側の清水櫓や山手門を撮影した資料は現段階で確認されていない。

主要古写真一覧表

番号	撮影対象	年代	概要	所蔵
1	甲府城跡(全景)	幕末～明治初期	北東から撮影。稲荷櫓・本丸櫓・数寄屋櫓・鉄門等が写る。	山梨県立博物館
2	天守台、本丸、稲荷曲輪、内堀	幕末～明治初期	北(山の山門橋付近)から撮影。本丸櫓・煙硝蔵が写る。	個人
3	鍛冶曲輪	明治10年代	北から撮影。鍛冶曲輪に葡萄酒醸造所施設が写る。	山梨県立博物館
4	二の丸	明治30年代	南西(楽屋曲輪)から撮影	山梨県立博物館
5	天守台、稲荷曲輪	明治30年代	北(花畑付近)から撮影。	甲府市教育委員会
6	天守台、天守曲輪	明治30年代	南(鍛冶曲輪)から撮影。	山梨県立博物館
7	楽屋曲輪、大手門、内堀	明治30年代	南東より撮影。大手門木橋が写る。	甲府市教育委員会
8	楽屋曲輪、柳門	明治45年	南西より撮影。皇太子巡幸の様子。	甲府市教育委員会
9	本丸、二の丸	大正時代	北西(屋形曲輪)から撮影。	甲府市教育委員会



1. 山梨県立博物館蔵

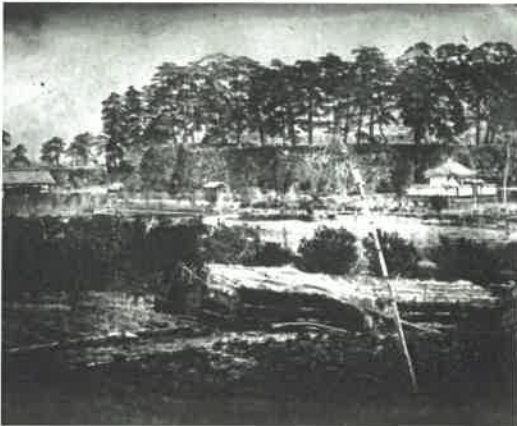


2. 個人蔵

出展：「大日本全国名所一覧-イタリア公使屋敷の明治写真帖」
P86 (2000年株式会社平凡社)



3. 山梨県立博物館蔵



4. 山梨県立博物館蔵



5. 甲府市教育委員会蔵



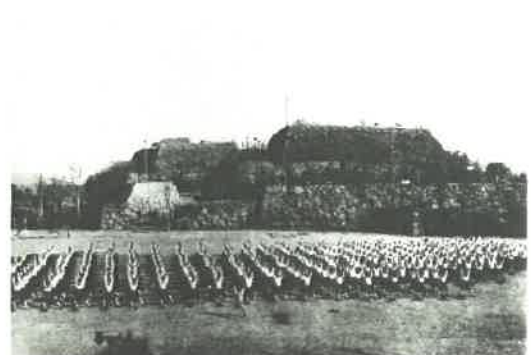
6. 山梨県立博物館蔵



7. 甲府市教育委員会蔵



8. 甲府市教育委員会蔵



9. 甲府市教育委員会蔵